第 1学年　算数科学習指導案

1　日時・場所　令和8年（2026年）　10月9日（金）　14:00～14:45　　1年1組教室

2　単元名　「かたちあそび」

3　本授業の提案

本単元では、立体図形や平面図形についての基礎となる経験を豊かにすることをねらいとしている。ものの形に着目し、身の回りにあるものの形を観察や構成の対象とし、身の回りからそれらを見つけたり、実際に手に取ったり、形作りをしたりする活動をする。そのような活動を通して、ものの色や材質に関係なく形を認め、形の特徴についてとらえることができるようにする。

はじめに、空き箱や筒などをよく観察し、実際に手に取って触ったりして、形の特徴や機能を観察する。そして、これらの物を使って車やタワーなどを作る活動を行う。その際、あえて限定的な条件を提示することにより、「そのままではできない。だって…」「もっと〇〇がしたい。だって…」などの児童の発言が生まれると考える。

説明する言葉を引き出すことによって、「箱は積みやすいのでビルに使おう」「この形は丸くて転がりやすいので車の車輪にしよう」「筒は立てると高くなるのでタワーに使おう」など、それぞれの立体図形の機能に着目させたい。

4　現状の児童の様子と手立て

気になる子の困りと今の姿

・活動を始めた途端、説明した質問を聞いてくる。
・自分の発表が終わると満足し、友だちの発表を聞くことができない。自分の考えを表現することができないこともある。
・箱を組み立てた形をイメージすることができない。
・たし算ひき算に苦手意識を持っている。

→

授業での具体的方策

・活動を順序立てて説明する。
・友だちの発表を復唱させる。グループ活動等で自分の意見につなげる。
・実際に組み立てながら完成をイメージし、適切な素材を自己決定させる。
・計算プリントを授業開始時に取り組む。

→

期待する姿

・同じ内容を繰り返し聞くことなく、必要な内容のみ質問できる。
・自分の発表だけでなく、友だちの発表もよく聞くことができる。
・自分で場面に応じて選択することができる。
・計算が正確にできるようになる。

5　単元指導計画（全　4時間　本時　1/4時）

第1～2時 （本時）	ものの形に着目し、身の回りの具体物の概形をとらえ、観察や構成を通して立体図形の特徴や機能を知る
第3時	ものの形に着目し、身の回りの具体物を概形や特徴、機能から分類する
第4時	立体図形を構成する面の形に着目し、平面図形を見いだす

6 本時の目標（1/4時）

・立体図形に親しむ。

・箱などの身の回りの具体物の概形や特徴、機能をとらえる。

7. 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項・手立て
1. ３分計算に取り組む。	・中央に箱を並べておく。そこを囲むように班の形で着席する。
2. １人１つ好きな箱を取りに行く。 めあて:どうすればできるかな？	・最初は車を作ることを伏せておく。
３～４人のグループで車を作る。 ・作戦タイムで車を作るのに必要な箱の特徴を話し合い、交換したいものがあれば交換する。 ・完成後、最初に選んだ箱と、交換したものにどんな違いがあるか交流する。	・作り方のルールを掲示する ・タブレットのカメラの画面を電子黒板に映しながら共有する。 ・車を作ると伝えた際の発言で、形の特徴をとらえた発言をひろう。 「丸いものがないからできない」「交換したい」「平べったい形」「滑りやすい形」など
3. すべり台を作る ・作りながら、必要に応じて交換していく。 ・完成後、工夫した箇所を交流する。	・何を作るのか伏せて児童から質問が出るのを待つ。「何を作るか教えて」 ・すべり台は完成後に人形をすべらせて、すべり台として機能するか確認する。
4. タワーを作る（１回目） ・一人ずつ箱を取ってきて、その順序のまま机に積んでいく。 ・完成後、工夫したことや気を付けたことを交流する。	・組み立ての例を示す。 ・前の人が置いたものは触っても良い。 ・ほかの班のアイデアを真似しても良い。
5. タワーを作る（２回目） ・箱を戻さず、さらに追加して１回目より高いタワーを組み立てる。	・１回目のタワーを組み替えても良い。 ・ほかの班のアイデアを真似しても良い。
6. 児童が発言した言葉から、どのようなところに着目すると作ることができたかを振り返る。 まとめ:〇〇をよくみるとつくれる。	・箱の色やデザインではなく、形そのものの特徴や機能に着目させる。 ・「かたち」「たかさ」など児童の言葉を取り入れて、まとめとする。

授業の視点	☑他者と協働して主体的に取り組む学習活動
	□AI、タブレットを活用した個別最適な学び
	□思考・判断・表現力を育成する言語活動の充実